

「パントポン」ノ治療的應用

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38290

原著及實驗

●「パントボン」ノ治療的應用

金澤病院神經科 那谷與一

「パントボン」ハ最近新藥中可ナリ名聲アルモノニシテ本品ハ阿片ノ製劑ナリ千九百〇九年ザーリ氏が報告セシヨリ以來諸家ノ實驗報告續出シ何レモ有効ナリト認メラレタリ

「パントボン」ハ阿片中ノ總テノ「アルカロイド」ヲ含有シ阿片ニ於テハ之等ノ「アルカロイド」ハ水ニ難溶性ナル「メコン」酸トシテ大部分含有サレ居レドモ「パントボン」ニアリテハ鹽酸ト結合シタル形ニ於テ含有サレ水ニ可溶性ナリ故ニ注射ニ適ス

「パントボン」ハ褐色ノ粉末ニシテ十二分ノ水ニ溶解シ温湯ニハ甚ダヨク溶ケ性ハ弱酸性ナリ煮沸ストモ分解スル事ナシ

適應症 阿片及ビ「モルヘン」ト同一ノ目的ニ用ユ

I. 上瀉劑トシテ例ヘバ腸加答兒下痢ノ際

2. 鎮痰劑トシテ氣管支加答兒ノ咳嗽刺戟ノ鎮靜或ハ肺ノ疾病ノ際
3. 鎮靜劑トシテ苦悶狀態ノ緩解ノ目的及ビ酒客譫妄或ハ神經衰弱症等ニ於ケル亢奮狀態ノ際

4. 鎮痛劑トシテ腹膜炎、腸チフス或ハ腹部手術後ノ疼痛緩解ノ目的
咳嗽ニ對スル「パントボン」ハ多數ノ報告ニヨルニ奏效著明ナルガ如シ肺結核喉頭加答兒其他氣管支加答兒等ノ際乾咳ノ際ニ「プロセント」ノ「パントボン」ニ〇滴ヲ一日三回應用シ數日ニシテ消退シタル報告アリ
又或ル人ハ咯血ノ際ニ「プロセント」ノ溶液一c.c.ヲ皮下注射シテ奏效セル報告アリ

氣管支喘息、神經炎、神經痛等ニ對シテハ「モルヘン」ト同作用アリト雖モ副作用ト習慣性少キヲ可トス

癲癇并ニ之ノ苦悶狀態ニ對シテハ「パントボン」ノ効果ハ「モルヘン」ニ勝ル一日二—三回〇、〇二ノ「パントボン」ニ注射スル時ハ苦悶ヲ有スル鬱憂并ニ癲癇ノ發作間ノ高度ノ苦悶狀態ヲ消失セシムル事ヲ得

催眠劑トシテ輕度ノ不眠症殊ニ疼痛或ハ神經性不安ニ基クモノニ効アリ

下痢ニ對シテハ著明ノ効果ヲ現ハス蠕動不安及ビ之レニ併發スル症狀ヲ除去スルニ適ス胃腸炎等ニ於テ嘔吐ノ爲メニ阿片ノ内服困難ナル場合或ハ盲腸炎等ニ於テ嘔吐甚シク内服藥効ナキ場合少カラズ之等ノ際ニ於テハ「パントボン」ノ皮下注射ヲ行フヲ便トス

單純ナル腸加答兒ニシテ毒物排泄後下痢尙續ク時ニ本品ノ皮下注射ヲ行フ時ハ痙攣性疼痛并ニ下痢ハ速ニ止ム

開腹術後ノ患者ニ對シテハ「パントボン」ハ腸ノ蠕動ヲ麻痺スル事ナク鎮痛鎮靜ノ効アリトハイマンハ主張ス

フリツヒアウルホルン氏ハ「パントボンスコボラミン」ヲ始メテ産科のニ用ヒタリ陣痛甚シク産婦苦痛甚シキ時ニ應用スレバ陣痛ヲ減弱スル事少ナク只鎮痛ニ働キ好結果アリト稱シ近來産婦人科の其他外科の手術ノ際ニ應用サル、ハ人ノ知ル處ナリ

神經性ノ疾病并ニ精神病ニ對シテ亢奮狀態殊ニ苦悶ヲ伴フモノニ皮下注射ヲ行フ時ハ結果良好ニシテ阿片又ハ「モルヒン」ニ比シテ習慣性少シトハイマンハ稱譽ス

余ハ鎮痛、苦悶、下痢、催眠ノ目的ニ本品ヲ使用シテ効果アル事ヲ經驗セリ依ツテ二三例ヲ次ニ掲ゲタリ

第一例 診斷 脊推結核 三十才(男)

二年前ヨリ季肋部ニ帶狀感現ハレテ次ニ蟻走感アリ其後第四第五胸椎ニ輕度ノ突出ヲ來セリ季肋部ヨリ下方知覺鈍麻シ両下肢振戦歩行漸次困難トナレリ本年二月頃ヨリ直腸ニ障礙ヲ來シ便秘ス膀胱障礙ハ殆ドナシ髓反射兩側共ニ甚シク亢進シ「バビンスキー」及ビ足現象アリ三月二十七日頃ヨリ季肋部窘迫感ヲ來シ時々胸内苦悶ノ發作ヲ來シ之ノ際ハ上肢ノ筋肉強直及ビ咬筋強直ヲ來シ牙關緊閉ヲ發シ甚シクハ殆ド人事不省トナル

三月二十九日發作來ル發作ノ前ニ惡心アリタリ發作中「パントボン」一筒(〇、〇二)胸部ニ皮下注射シタル二三分間ニシテ上肢ノ強硬并ニ咬筋強直

緩解シ苦悶去リタレドモ午前三時頃一回嘔吐シタリ爾來元病ノ症狀ノミヲ殘シテ發作來ラズ

第二例 診斷 腦梅毒 四十二歲(女)

昨年十一月頃ヨリ頭部不快ノ感アリテ鬱憂性トナリ涕泣スル事アリ杞憂多ク不眠ナル約一ケ月前ヨリ右半側頭部ニ頭痛甚シク殊ニ夜間ニ増悪ス近來夕刻ヨリ發作性ニ頭痛甚シク三月二十四日發作中「パントボン」錠一個ヲ與ヘタルニ二十分後ヤ、輕快ヲ覺エ睡眠スル事ヲ得タレドモ一時間ノ後再ビ頭痛ノ爲メニ醒覺シタリ依テ「パントボン」一筒ヲ注射シタルニ翌朝迄安眠ヲ得タリ其ノ後三日間輕度ノ頭痛アリタルモ發作ナカリキ

四日目ノ夜八時劇烈ナル疼痛發作ヲ來シ依ツテ「パントボン」一筒ヲ注射セリ二十分ノ後疼痛ハ緩解シ眠ル事ヲ得タリ然レニ午前一時又ヤ、輕度ニ發作シ半筒ヲ注射シテ安眠セリ其ノ後二日間夜疼痛ヲ發作スルモ從來ノ如ク劇烈ナラズ半筒ノ注射ニヨリ安眠ヲ得ルニ至レリ

第三例 診斷 脊推結核 七十一歲(男)

昨年二月頃腰部ニ疼痛ヲ來シ六月ニ至リテ左側ノ下肢ノ知覺異常ヲ來セリ七月ニ步行障礙ヲ來ス九月ニ至リ兩下肢ノ運動全ク不能トナル目下左側腸骨部ノ疼痛アリテ兩下肢ノ運動知覺ノ麻痺アリ薦骨部ヨリ腸骨節ニ渡リ帶狀感アリ緊迫疼痛甚シ便秘ヲ有スレドモ排尿ニ變化ナシ提孳反射存ズレドモ「アヒリス」髓反射消失シ陰部ノ知覺消失セリ三月二十日腸骨部ノ帶狀感疼痛甚シ依ツテ「パントボン」錠二個ヲ與ヘタルニ疼痛緩解安眠セリ爾來三日間疼痛時毎ニ一個宛ヲ與ヘ疼痛ハ輕快セリ

第四例 診斷 脊髓癆性麻痺性痲病 四十六才(男)

十三年前前ニ梅毒ニ罹ル一昨年「サルバルサン」ノ注射ヲ受ケタリニケ月程前ヨリ兩足蹠部ニ電擊性疼痛アリ漸次下腹部以下ノ知覺鈍麻ヲ來シ又歩行障礙ヲ發シ手指ノ振顫著明トナリ書學困難記憶力減退言語障礙アリ刺戟性ニシテ不機嫌耳鳴ヲ訴フ輕度ノ排尿障礙便秘アリ瞳孔ノ對光反應消失シ右側ノ瞳孔ハ縮少セリ兩下肢ニ運動知覺ノ障礙ヲ有シ膝蓋腱反射消失シ不眠記憶減退アリ三月十一日胃部滯留感アリ翌日ヨリ下痢ヲ來シ一日七八回ニ至ル依ツテ「パントホン」錠二個ヲ頓服セシメタルニ下痢ハ全ク止ミタリ

第五例 診斷 腦神經衰弱症 (二十三才、男)

二三年前ヨリ頭重頭痛記憶減退不眠ヲ來シ事物ニ驚キ易ク刺戟性トナリ心悸亢進ヲ感シ胸内苦悶發作性ニ來襲スルアリ發作時ニハ呼吸息迫シ冷汗ヲ流ス發作ハ始メ一週ニ一回位ナリシモ近來二三日ニ一回位ノ頻度トナル三月二十八日入院當日苦悶ノ發作ヲ來セリ依ツテ「パントホン」一筒ヲ注射セシニ二十分ニシテ苦悶去リ患者ハ甚シク輕快ヲ喜ベリ後二日ニシテ輕度ニ發作シ爲メニ半筒ノ注射ニヨリテ鎮靜セリ其ノ後二回ノ發作モ常ニ半筒ノ注射ニヨリ確實ニ苦悶ヲ去ルヲ得タリ

第六例 診斷 比斯的利症 (二十一才、女)

三四年前ヨリ我儘トナリ刺戟性ニシテ小事ニ喜怒哀感情ノ轉換甚シ二年前ヨリ疾病妄想ヲ來シ幻臭ヲ訴ヘ糞臭ナク近來胸内苦悶ヲ來シ涕泣ス又不眠ナリ依ツテ毎夕監臥時ニ「パントホン」錠ヲ與ヘ又ハ注射ヲ行ハタルニ苦悶ノ發作ハ著明ニ緩解セシモ不眠ニ對シテ寸効ナカリキ
余ハ其他鬱變性精神病不眠ヲ有スル精神病ニ本品ノ内服又ハ注射ヲ試用セシモ不眠ニ對シテハ他ノ催眠藥ノ効果ニ及バズ又精神病ノ苦悶狀態ニモ大

効ナカリキ

但シ神經病ニ屬スル疾病ニ對シテハ本品ノ鎮痛作用及ビ鎮靜作用ハ確實ニシテ下痢ニ對スル効力モ著明ナリキ副作用トシテ見ル可キモノハ一c.c.ヲ皮下注射シタル際ニ於テ二三ノ患者ハ輕度ノ眩暈ト惡心トヲ發セリ之等ハ皆女性ノ患者ナリキ
余ハ未ダ習慣性ヲ生ジタルヲ見ズ (明治四十五年五月草)

● 健尿及ビ病的尿中ノ「フォルモール」滴
定法ニヨル「アミノ」酸窒素ニ就テ

第一回報告

健尿中ノ「アミノ」酸窒素ニ就テ

東京杏雲堂病院ニ於テ

吉光寺 錫
清水憲 策 共述

初メ Henriques 氏ニヨリ尿中ノ「アミノ」酸定量法トシテ應用セラレタル「フォルモール」滴定法ハ簡單ニシテ稍々精確ナリト雖モ此方法ニヨリ定量セラレタル所謂 Aminoacide N. ハ全ク尿中ニ存スル「アミノ」酸ノ量ニ一致セズ尙尿中ニ存スル Polypeptide 及 2 Noch hoch-moleculare Eiweissabkömmlinge 中ノ「アミノ」屬ノ窒素ガ同時ニ滴定セラレ、モノナリ、然リ而シテ尿中ニ「アミノ」酸及ビ Polypeptide 等ノ排出セラレ、ハ特ニ蛋白新陳代謝障礙ノ際顯著ナルヲ以テ種々ノ病的尿ニ就キ「フォルモール」